かぜ 緑風

2013年12月15日発行

No.34

早稲田大学本庄高等学院通信

発行：早稲田大学本庄高等学院　発行人：兼築信行　〒367-0032　埼玉県本庄市栗崎239-3　☎0495-21-2400　【URL】http://waseda-honjo.jp

早稲田の「萬夢志」たらん

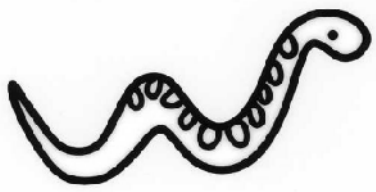
学院長　兼築信行

年度初めの始業式で、生徒諸君にお話ししたのは、学院長は「人に迷惑をかけない」という言葉が嫌いであるという内容だったが、覚えているかな？　皆目を丸くしたが、「人に迷惑をかけない」は、容易に「人に迷惑さえかけなければ、何をしても構わない」へとスライドする。しかし大隈老侯は、「世のため、人のため汗を流す」人材を育成すべく早稲田大学を作ったのだという。されば「人に迷惑をかけない」ではあるまい。学院生は、世のため、人のため「自分は何を与えられるか」と考えるべきなのだ。その場合、与えるのは何も「物体」である必要はない。心のこもった「言葉」でもよい。それは必ずや、人と人との関係を、そして社会を、よりよい方向へと廻していくキッカケとなるはずである。

言葉は大きな力をもつが、やっかいなシロモノでもある。学院長になって最初に受けたご注意は、「本庄を田舎だと絶対に言わないでください」ということだった。また、「特に女子生徒の中には、都会の学校へ通っていないコンプレックスが強く、保護者の思いも複雑です」と教えてくれた先生もいた。しかしながら、本庄早稲田駅へとアプローチする新幹線の車窓に広がる風景は、紛れもなく田圃や畠ではないのか。大学が本庄キャンパスを舞台に進める諸々のプロジェクトも、「稲作」「農業」「どんぐり」…と、これらは都心にあって展開できるものかは。もし田舎であることで傷つくなら、八雲立つ出雲の国、島根県の出身者であるこの学院長は、一体どうすりゃいいのよ？

早稲田はがんらい、東京大学の反体制派学生のために作られた学校であり、そのことが早稲田らしさを培ってもきた。その核心こそ「進取の精神」。つまり、早稲田の身上とは、胸の内に屈託を抱きつつも、強烈な闘志とあくなきチャレンジ精神とを、常に保ち続けていくことなのだと、この学院長は理解している。

本庄には旗印が無い、シンボルが無いと思った。そこで着目したのが「まむしに注意」の看板だ。こんな強烈な表象は他に見当たらぬ。眉を顰めるむきもあったが、これを一種のジョーク・キャラと見立てて、生協にオリジナル・グッズを開発してもらった。「田舎だと絶対に言わないで」のご忠告には、真っ向から反する行為であった。



マムシが出るなら、ここは間違いなく田舎であろう。本庄は早稲田の早苗を育て上げる苗代だ。マムシだって、「萬夢志」と表記すれば、めでたい限り。実は生徒寮の名称候補として「萬夢志寮」を考えた。鎌田薫総長は、女子がマムシ出身と名乗るわけにもいくまいと却下され、「早苗寮」という非の打ちどころのない佳名を付けてくださったけれども。

だが、「萬夢志」にはまだまだ愛着がある。マムシは卵胎生、体内で卵を孵化させ幼蛇を産むから、母性愛も強い。毒蛇というのもステキである。早稲田の人間たるもの、多少の毒気くらいは持ち合わせていたいもの。生徒諸君は将来、無害で従順な人間になりたいか？

この本庄高等学院の施設のどこかに「萬夢志」の名を刻し、学院長を罷めることができたらと思う。そういえば我が故郷は、実に、ヤマタノオロチの産地なのであった！

私たちにしかできない稲稜祭

稲稜祭実行委員長　3年　永井　絢

「私たちにしかできない稲稜祭とは何か」。旧校舎最後の年でも、新校舎はじめの年でもない今年の稲稜祭…答えはなかなか出ませんでした。そんな矢先、学院生全員に向けた稲稜祭アンケートに寄せられた「稲稜祭をまた旧校舎でやりたい。」という多くの声。この声が私たちに火を付けました。旧校舎を知る最後の代である私たちにしかできない稲稜祭、それは旧校舎以上の稲稜祭を新校舎で創り出すこと。「新校舎の稲稜祭いいじゃん！ってみんなが思えるものするんだ」そんな烈々たる思いで、私たちは四月から日々話し合いを繰り返していました。

個々の持つ早稲田魂が全開になり、明日への活力、エンジンとなる非日常空間の創造を目指そう。そんな思いで決めたスローガン、「臙心(エンジン)」。早稲田魂を(早稲田のテーマカラーである)臙脂色に燃える心ととらえ、原動力という意味のエンジンとかけました。

目標は定まった、じゃあ具体的にどうしていこう…？ここからが奮闘の日々の始まりでした。まず新校舎を最大限に活かすべく、美術部を中心に「校舎内の白い場所を全部無くそう！」と製作に励んだ美術パート。パンフレットやWebサイトを寝る間を惜しんで作成した広報パート。一から企画を考え、何度話し合ったかわからないイベントパート。夏休みも返上で何度も集まり、製作と話し合いを繰り返しました。この他にも、「稲稜祭」「臙心」の文字を刻んだ横断幕の作成に尽力したパートや、時には涙を流し、それぞれのクラスをまとめあげた委員…。いつしかそれは委員だけでなく、稲稜祭というひとつの目標を成し遂げようとする学院生の本気を、臙心を、肌で感じました。

そして迎えた当日。予想されていた台風も学院生の熱気で吹っ飛び、最後まで無事実施することができました。各団体の手間のかかったハイクオリティな企画、全力でステージパフォーマンスを披露する団体。それぞれの臙心を燃やし、本物を追求する学院生の姿がそこにはありました。中後夜祭では、総勢112人の出演者、そしてステージを盛り上げる学院生の歓声が、幾度も議論を重ねてきた企画に色を付けました。そして後夜祭ラスト、学院生全体が一体となるあの「紺碧の空」。肩を組み、泥だらけになりながら飛び跳ねるみんなの姿を、笑顔を、私は一生忘れないと思います。見上げるとまさしく紺碧の空が私たちを包んでいました。

正直私はずっと不安でした。だから稲稜祭終了後「最高に楽しかった！」「新校舎の稲稜祭もいいなって、今年の稲稜祭で思ったよ」と言ってくれるみんなの声にほっとし、本当に、本当に嬉しかったです。いや、嬉しいなんて言葉じゃ表現できない激しい喜びとこの上ない達成感が込み上げました。

今年の稲稜祭は成功だったのか。その答えはみんなが決めること。この日のことをまた思い出して「楽しかったな」「早大本庄来てよかったな」と思えるような、そんな空間が創造できていたのなら、大成功です。

これまで数えきれないほど多くの方々に支えられ、無事稲稜祭を終えることができました。学院長先生、嘉来先生をはじめとする先生方、塚本さんをはじめとする事務所の方々、バスドライバーの方々、生協の方々、警備員の方々、清掃員の方々、寮長さん、寮母さん、保護者の皆様、稲稜祭を支えて下さった全ての方々に心から感謝申し上げます。そして、委員のみんな、美術部の皆さん、このメンバーじゃなかったらここまで来れませんでした。本当にお疲れ様！そして、この稲稜祭を盛り上げてくれた学院生のみんな、ありがとう！大好き！

この文章を書きながら今改めて、この学院でこの仲間と、一からひとつのものを創り上げることのできた幸せを噛みしめています。

Coffee Break

前回（緑風No.16）に続き、韓国料理第2弾、「ご飯編」。まずはビビンパップ。ズッキーニ、洋人参、大根、蕨などの野菜、さらに牛肉、目玉焼といった緑、赤、白、黒（茶）、黄色の五色の食材を、塩、胡麻油、砂糖、ニンニクなどで濃く味付けする。食材ごとに味を付けるので結構手間がかかる。▼調理された具を真鍮または熱した滑石製の碗のご飯の上に配色を考えて盛り付けし、韓国語の「混ぜる＝ビビン」よろしく、辛子味噌を加え、これでもかというほどに匙で掻き混ぜて食べる。五色の彩りは一瞬でグチャグチャ。でも、胡麻、海苔の香りも相俟って混ぜるほどに旨く、石焼の場合、ご飯や具の焦げも香ばしい。味付けにかける手間と一瞬に崩し、ひたすら食べるその落差が実に面白い。▼周知のビビンパップは光復（独立）後、全州の食堂が創作したものだが、家の男たちの食べ残したおかずを女たちが早く片付けるためにご飯の上に載せ混ぜて食べたのがその始まりともいう。確かに、ビビンパップを食べる男は少ない▼次いでクッパップ。韓国の家庭ではよくクッ（スープ）を作る。代々、クッを切らしたことがないという家もある。牛の肉、骨、内臓を煮込んだコムタン、豚を煮込んだテジクッなどで、コムタンは両班の没落を描いたドラマのタイトルにもなった。そうしたクッにご飯を入れて、塩、胡椒、アミの塩辛、ネギなどで味を調えて食べる。▼クッは肉だけに限らない。韓国の食材として欠かせない野菜にモヤシ（コンナムル）があり、家庭でも台所の甕の中で作っている。そうしたモヤシを塩、煮干し、小海老の塩辛などで取っただし汁で茹でたクッにご飯を入れたものがコンナムルクッパップ。淡白な味、頼りない香り、豆モヤシのシャキシャキ感は絶妙で、これまた、全州の名物である。▼朝に食べるクッパップはヘジャン（解腸）クッパップといい、内臓・体調を整え、一日の活力を培う食べ物とされる。確かに、寒さの厳しい冬の韓国で朝飯にグツグツに煮立ったクッパップを食べると体が芯から温まり、寒さ、眠気がスーと消えてゆく。唐辛子が入っていればなおさらである。汁とご飯が別々に出た場合、必ず汁の中にご飯を入れること。その逆は不吉といって韓国では嫌われる▼日本でいう丼物（トッパップ）もある。丼に盛られたご飯を天ぷらなど様々に調理された具で覆うものである。最近ではトンカツを載せたトッパップもあるが、さすがにこれをグチャグチャにして食べているのを見たことはない。珍しいものに白身魚の刺身、カキ、ホヤなど海鮮を生で載せたトッパップもある。少しく酢の効いたコチュジャンを混ぜて食べるカキ丼、ホヤ丼は絶品で、東北生まれの私にはたまらない▼どうも紙幅が尽きたようだ。韓国のご飯は具を載せ、混ぜ、汁に入れて食べるものが多い。したがって、どうしても、トッパップ、クッパップ、そしてビビンパップとなってしまう。ペゴパー（腹減ったー）。

（去牛）

修学旅行を振り返って

3年生は9月30日から5日間、台湾・韓国・沖縄コースに分かれて修学旅行へ行きました。

台湾修学旅行

3年F組　筒井　音羽

3つの旅行先の中で一番人気だった台湾旅行に参加することができた幸運な約150名は、9月30日に成田空港から旅立った。

到着した夜は台北101に行き夜景を眺めた。101階建てで2007年までは世界一の高さを誇ったこの建物には、風による振動を緩和する目的で巨大な球形のマスダンパーが設置されており、その大きさに圧倒された。

2日目は「千と千尋の神隠し」の舞台のモデルになったとされる九分を訪れた。山あいに位置しているせいか階段や坂が多く、日本の統治時代の面影と中国の街並みがほどよくブレンドされたレトロな雰囲気の街並みや商店を眺めながら、それらの階段や坂をのぼって探訪した。漢字だけで書かれた、原色で彩られた看板もノスタルジックな雰囲気を醸しだしていた。午後は東京の浅草寺のような雰囲気を持つ台湾でも最も古いお寺の一つである龍山寺を訪ねた後で、蔣介石を称える施設である中正紀念堂を訪れ、建物の雄大さに心を打たれた。故宮博物院では北京の紫禁城から持ち出された陶磁、玉や銅を素材にした器や置物、「珍玩」という皇帝が趣味で集めていた道具の数々を眺め、それらを手がけた職人たちの高い技術に思いを馳せ、ため息が出た。中でも三角貿易により輸入されたアヘンを鼻から吸い込むための瓶は、美しい装飾を施したものが多かった。

3日目は二二八記念館を訪れた。もとから台湾に住んでいた内省人と、戦後蔣介石と共に中国大陸からやってきた外省人との間に起きた不幸な出来事を風化させない目的で建てられた。この事件のきっかけとなったタバコ売りの女性の話は教科書で学んでいたものの、これほどまでに大規模な虐殺事件であったことはこの日初めて知った。そのあとは各班ごとに自由行動となった。

4日目は台中へ移動して、国立第一高級中学校（以下台中一中と略す）交流行事を行った。かつて台湾は日本の統治下にあり日本式の教育を強制されていたため、1915年に台湾人としてのナショナリズムと文化を担う人財を育てることが重要であると考えた創立者らが、この学校をつくったそうだ。台中一中は3250名の生徒を擁する台湾屈指のエリート校で理数、語学、芸術に特に秀でた生徒の選抜クラスが3クラスずつある。元男子校で女子生徒の数が少ないことなども早本と似ている。みなさんエリートなのに気取ることもなく、とても優しく歓待してくださったことに感激した。また勉強だけでなく音楽にも秀でている生徒が多く、吹奏楽の演奏はすばらしく、聴いていると旅の疲れが癒された。夕方高雄に移動して夜は六合夜市にくり出し、歩行者天国になっている通りにある様々な夜店や屋台をひやかして歩いた。好奇心をそそられる正体不明の食べ物がたくさんあったが、中でもスイカミルクは甘くておいしかった。台湾のスイカは日本のように縞模様がなく、濃厚で甘い実がつまっており、ジュースに好適である。最終日には寿山公園、蓮池潭、龍虎塔を訪れた。悪魔はまっすぐにしか歩けないので、ジグザグに曲がりくねって作られた道を通り、善良であるとされる龍の口に入り、その後で凶暴であるとされる虎の口に入ると災いから解き放たれるそうだ。

その後で訪れた八田與一（よいち）記念館、烏山頭ダムでは台湾の教科書に載っており、台湾農業の父と称えられる八田與一氏の功績について学んだ。八田氏は台湾の農民全体が豊かになるように、一時しのぎではない水事情の解決策を提案し、1930年代当時東洋一の規模の烏山頭ダムを建設し、台湾一の穀倉地帯を実現させた。農民間の格差を作らないことを予め計画したり、ダム作業に従事する労働者が家族と住める住居を作り、公共施設、娯楽施設などを併設したこと、台湾の方たちの目線で開発を推進する姿勢は、現在の途上国の開発援助モデルのひな形となっていると言える。東日本震災のとき200億円もの義援金を台湾の方たちが身銭を切ってねん出し、国民一人当たりの金額としては米国に近い金額を送ってくださったのは、八田氏に受けた恩を返すためだったとされている。台湾と日本との歴史を振り返り返り、これから二つの国の将来を考える上で貴重な台湾の同世代の生徒たちとの絆を深めることができた、有意義な旅行だったと思う。

最後に栞の製作や交流プログラムの企画にご協力いただいた先生方、フェイスブックに逐一写真をアップしてくださった委員のみなさんに感謝申し上げたい。貴重な思い出が作れたのはみなさんのおかげである。

韓国修学旅行

3年C組　山根　雅人

今思うとこうしてみんなで行く修学旅行というのは人生で最後だったのかもしれない。みんなで異国の地へ赴き、街を歩き、ものを食べ、現地の人と触れ合い、何を思ったのか、何を考えたのか、この場を借りてまとめたいと思う。

私自身、小学校時代ドイツに住んでいたこともあり、海外へは何度も行ったことがあるし、飛行機にも何度も乗った。だが今回の修学旅行ほど空港に遅れないように行き、飛行機に乗り、外国へと旅立つという、ただそれだけのことにワクワクしたことはなかっただろうと思う。そして我々一行は一人も遅れることなく飛行機に乗ることができ、仁川空港へと降り立つことができた。

仁川空港からはソウル市内のホテルまで一時間ほどバスに乗った。バスの中ではバスガイドの安さんと出会い、少し離れた所から見る大きなソウルの街を眺めることができた。今回の修学旅行で一番すごいと思ったことはまさにソウルという街が、都市がとても大きいということである。世界一の都市人口を持つ東京に住む私だが、正直なところ、東京よりソウルの方が都市として大きく感じた。ソウルには大きなビルが立ち並び、車道の幅もとても広く、十車線以上あり、バスがとても発達していた。まだまだとても綺麗とは言えないようなボロボロの建物もあったが、とにかくすごい、そう思わされた。

今回の修学旅行韓国コースではソウルに三泊、全州に一泊、そして扶余に一泊した。この三地点を拠点に様々な観光地へ行った。中でもソウル市内にあるソウルタワーや、北朝鮮との国境付近にある非武装地帯、DMZ、そして案養外国語学校の生徒との交流、ビビンバ発祥の地で食べたビビンバが記憶にとても残っている。

非武装地帯DMZでは北朝鮮という未知な場所に近づくということでとても興奮していた。韓国側からは北朝鮮の様子を望遠鏡で見ることができた。北朝鮮の国旗とともにとても小さく町並みが見えた。そこに人影を見ることはできなかったが、走っているバスを見ることができた。ただバスが走っているのを見ているだけで、これほど何かを思うことはなかっただろう。北朝鮮のバスというだけで、非日常的に思えてしまう。

そしてなにより韓国の人々と触れ合うことができた学校交流。案養外語学校は日本語コース、英語コース、中国語コースがあり、外語学校ながら、医学部を初めとした優秀な大学への合格者を出すようなエリート校である。私の交流相手はたまたま日本語コースの人だった。お互い拙い日本語、韓国語そして補うように英語を使ってコミュニケーションをとった。韓国の高校生ってどんな感じなんだろう。言葉に表せないが、なんとなくわかった。メールアドレスを交換して、その後も交流を続けている。

また、韓国の料理を毎日のように食べながら、そのなかでも記憶に残っているのはビビンバである。発祥の地である全州でビビンバを食べた。

班のみんなが石焼を頼む中、みんな同じではつまらないと真鍮のものを頼んだ。真鍮とは石の器ではなく、銅と亜鉛の合金でできたものを言う。そこで気づいたのは、真鍮の方が冷めるのが早いということだ。そして実は現地の人はみんな真鍮のものを食べていた。加えて、元々ビビンバは真鍮のものがはじまりだったという。ビビンバを食べる時はぜひ真鍮のものを食べてみたらいかがだろうか。

まだまだたくさんの思い出があるが、思ったことをまとめたい。

この機会を通して、旅行ではどこに行くかよりも誰と一緒に行くかというのが重要なようにも思えた。一緒に巡った班の人たちと一緒だったから楽しかったのかもしれない。だがしかし、その上でどこへ行くか。韓国コースは、旅の楽しさを倍増させてくれるにふさわしい場所だったと思う。韓国と触れ、理解し、味わったつもりだ。修学旅行から帰った後は韓国が好きになった。

どこへ行こうか迷っている後輩たちへ、どこへ行っても楽しいと思うが、ぜひ良い友達と選び、修学旅行へ向けて準備をし、行く先の地を思う存分楽しんで良い思い出を作って欲しい。私はその場所として韓国をお勧めする。

沖縄の文化、歴史、そして想い

3年H組　佐藤　誉

今年度の修学旅行は北京コースから沖縄コースへと変更され、唯一の国内コースとなりました。海外のことを知るよりも前にまず日本のことを知らなければと思い、私は沖縄コースに参加しました。実行委員長になったのも、できるだけこの修学旅行に深く関わりたいと思ったからです。

修学旅行で沖縄を訪ねて始めに感じたのは、沖縄も日本であるというとても当たり前のことでした。本州にいる人にとって沖縄といえば、戦争や米軍、壮大な自然といった、特徴的なところばかりに目を向けるでしょう。私も今回沖縄に行くまではそうでした。しかし那覇空港から一歩出れば、そこには本州となんら変わりない、沖縄県がひろがっていました。

しかし平和祈念資料館など、沖縄の歴史に目を向けると、今までテレビなどを通じて得た情報以上の惨劇を知ることとなりました。実際に戦争を体験された方から直接お話しを伺う機会も用意していただきました。そのお言葉の一言ひとことが胸に突き刺さり、次の世代を担っていく者としての責任と、決して忘れてはいけない、風化させてはいけない悲劇を教えられました。資料館でも、ひめゆり学徒隊として動員された方たち一人ひとりの写真、戦場の悲惨な写真など数多くの写真や文章に胸を締め付けられる思いでした。たくさんの予定を詰め込んだ今回の沖縄旅行でしたが、欲を言えば、一日中あの場所で一枚一枚の写真を、綴られている一文字一文字を、見ていたいと思いました。また辛い体験を語ってくださった方々の平和を願う想いを私も持っていきたいと強く感じました。

米軍基地も自分の目で直に見ることができました。本物の基地は自宅のテレビで見ていた時とは全く違う様子でした。飛行機が飛ぶ瞬間も何度か見ましたが、問題となっている騒音の一端を感じることができました。想像していたよりもずっと大きい基地のスケールに、なるほどこれが米軍基地かと圧倒されました。それと同時にその周りに住宅など一般の建物が多く建っているのを見て、基地に反対する人たちの悲痛な叫びが本当の意味で分かった気がしました。

一方、楽しいこともたくさんありました。沖縄ならではの文化体験は非常に充実した時間でした。サトウキビの収穫をさせていただき、黒糖をつくって皆で食べながら踊ったりもしました。サトウキビ体験は男子のみということもあり、時間いっぱいまで思いっきりはしゃぎ倒し、抱腹絶倒しながら楽しみました。

有名な美ら海水族館では、たくさんの魚や生き物を見ることができ、日頃行くことのない空間に癒されました。アウトドアでは竹富島でのサイクリングを楽しみましたが、こちらは途中で大雨が降り皆びしょ濡れになりながらも自転車を漕いでいました。

たくさんの体験をして、思い出もたくさんできましたが、一番の思い出はなんといっても台風です。四日目から私たちは予定を変更せざるを得なくなり、予定していた体験ができなくなったりと多少の戸惑いはありました。しかし、ふと生徒の様子を見ると、さすが高校生というべきか、できなくなった体験を嘆きつつも急な予定変更さえもひとつの楽しみかの様に興奮していました。五日目になって延泊が決まったと伝えた時には各部屋中大騒ぎでした。しかし先生方や旅行社の方はそれどころではなく、急いで対応してくださいました。

こんなにたくさんの事を経験した私たちですが、これからもさらに多くのことを自ら学び、自ら問い、成長していきたい、そんな風に思わせてくれた今回の沖縄旅行に感謝したいと思います。

教員コラム

木もれ日

ベンガルの風

地理歴史・公民科（地理）高井寿文

バングラデシュに長期滞在した日本人が書いたメールマガジンに「バングラデシュの人々は、地図を使う習慣がない」という記述がある。これまで6度のバングラデシュの渡航では、確かに日常生活において彼らが地図を使っている場面に遭遇したことがない。日常生活で地図を利用しないバングラデシュの人々は、身近な環境について、どのような地理的イメージを形成するのか、とりわけ高所から俯瞰する経験の少ないバングラデシュ農村部の成人を対象に手描き地図の調査を行い、空間認知と地図利用の有無や居住環境との関わりについて検討している。

バングラデシュは主にイスラム教で、人口密度の極めて高い国家である。アジアの最貧国であるものの、近年ではユニクロ等のアパレル業界の進出により「世界の縫製工場」と呼ばれ、年6％の経済成長を実現するまでとなった。

私が初めてバングラデシュに渡航したのは、名古屋大学大学院博士前期課程2年目が終わる1999年3月であった。目黒にある大使館にビザを申請し、狂犬病や肝炎の予防接種をするのも、初めての経験だった。香港発でダッカ深夜着の航空機から外を見ると、首都にもかかわらず、ほとんど電気が点いていない。滑走路はガタガタで、税関を出ると人々がゴロゴロ寝ている。街並みは薄暗く、トラックもバスもタクシーも、全てがクラクションを鳴らして、我先に進もうとする。夜明け前にアザーン（お祈りの呼びかけ）が大音量で響き渡る。通りに出ると、物凄い数のリキシャと人々と車とが雑然と行き交い、凄まじい喧騒である。子供や手足の不自由な物乞いが、新聞や花を買ってくれと寄ってくる。当時まだ日本人は珍しく、あっという間に20人程度に囲まれる。どこに行くにも子供たちが後を付いてくる。何か危害を与えられる訳ではないが、何とも奇妙な感覚に陥る。食事はカレーが中心で、右手で食べてみるものの、なかなかうまく行かない。ドイ（ヨーグルト）は、濃厚な味で大好きである。

首都ダッカから車で4時間ほど走ると、名大地理学教室の研究グループが恒常的に訪問しているカジラパラ（パラは村の意味）に到着する。元国連大使のS・I・カーン博士が主宰するNGO「GRAM BANGLA」の宿舎を拠点に調査を行っている。広大な沖積平野では米の三期作が行われ、その中に森に囲まれた集落が島のように点在する。広場では子供たちがクリケットをしている。電力供給が不安定なため、隣村で工場が稼働すると、あっという間に停電する。蝋燭と懐中電灯が頼りである。辺り一面が真っ暗な中を、あちらこちらに野生のホタルが飛び交い、時おり部屋の中に入ってくる。上空は、満天の星空である。

＊　＊　＊

今年度の本庄高等学院稲作プロジェクトでは、選択科目「農業と環境」と「食文化」の生徒を中心に田植え（6月）と稲刈り（9月）を行った。私も生徒達と一緒に水田に入った。どちらも中腰での作業なので、ほんの数メートル進むだけでも腰が痛くなる。バングラデシュの農民は、田植えも除草も稲刈りも全て手作業である。身をもって農作業の大変さを体験した。

開発か援助が中心で、まだ観光として訪れる国とは言い難い。そこで、私が担当する3年生必修科目「地理A」で、例年バングラデシュに渡航してみたい生徒を募集している。学部生になってからの渡航する時に、誘うと伝えている。今年度も3年生の数名が積極的に申し出てくれた。開発途上国は若い内に経験しておくべきで、滞在すると人間観が必ず変わると思う。私は、バングラデシュの人々のその日その日を一生懸命に生きている姿や活気のある街の雰囲気に、いつも感銘を受ける。自分も頑張らなくてはいけないという気持ちになる。帰国すると、日本人は何を目標に生きているのかと思うばかりの覇気の無さを感じる。バングラデシュに滞在した経験が私に与える影響は大きい。

現在ではダッカ市内にガラス張りのインテリジェントビルや大型のショッピングセンターが次々と建設されている。徐々に文明的な要素が入ってきて、どこか牧歌的で懐かしい雰囲気が薄れていく気がしてならない。あの雑踏やベンガルの風に晒されたくて、またバングラデシュに行きたくなる。

からし菜のお花畑にて（12月）

SSH・国際交流プログラム報告

以下、SSH・国際交流プログラムの報告です。これらのプログラムはLHRで案内されています。

1．足尾巡検（6月9日）

ぐんま昆虫の森、足尾銅山、草木ダム周辺の地質、小平鍾乳洞の巡検を行いました。特に足尾では「足尾に緑を育てる会」のガイドさんの案内により煙害で廃村になった住居跡地などを見学し、公害の恐ろしさを学びました。

2．南三陸研修（7月27日～29日）

南三陸町・北上川河口・いわき市周辺を訪れ、津波災害による自然環境の影響・被災地復興の今後に関する講義および河川環境調査、正しい放射線理解、原発事故の現状と今後に関する講義を行いました。1年生の佐藤裕友、稲玉侑里子、2年生の田中楓太、町田悠輔、清水皓裕、3年生の黒澤佑太郎、福島みのり、藤倉花帆、山崎美輝、真下あずみ、齋田悠平、斉藤龍之介、川平みつる、筒井音羽、大津荘子、藤井すみれ、若井悠貴、浦野貴之、皆川萌佳、清水理穂が参加しました。

3．International Intelligent Ironman Creativity Contest　2013（7月31日～8月7日）

この大会は、台湾教育部（日本の文科省に相当）が創造性教育推進のため、台湾全土の大学と連携し、台湾全土の高校生を対象に開催している国家規模のコンテストです。2005年より国外6校を招いての国際大会となり、本庄学院は日本代表としてこのときより毎年招待されています。ルールは大変複雑ですが、基本は最終課題の「表現」に3日間かけて取り組むというものです。いままで、最高4位でまだ入賞がありませんでした。今年度は課題の出来栄え・プレゼンテーションとともに突出しており、念願の初優勝をもぎ取ることができました。また、パフォーマンス部門でも1位を勝ち取りました。参加者は3年宮倉穂奈美、前田伽南、渡辺奈央、黒須菜乃子、豊田遙、藤井すみれです。

4．SSH生徒研究発表会（8月8日～9日）

全国のSSH校が横浜に集まる研究発表会です。2日間にわたって口頭発表・ポスター発表に参加してきました。タイトルは「電波の入りやすさと金網の構造の関係」でした。参加者は3年生の梶智子、小畑菜央、皆川萌佳の3人です。

5．Waseda-NJC Exchange Programme（8月10日～16日）

毎年恒例となった、姉妹校Singapore National Junior Collegeとの交流活動であるWaseda-NJC ExchangeProgrammeが今年も8月10日～16日の6泊7日で開催されました。参加者は1年生の市川なつみ、阿佐美優花、2年生の寺村まどか、坂本玲、吉田麻未、増田葉月、設楽彩香、清水皓裕、3年生の福島みのり、萬羽里映の10名です。授業参加、実験教室、共同研究ミーティング、シンガポール動物園や植物園におけるワークショップ等盛り沢山なプログラムでした。

6．小笠原研修（8月27日～9月1日）

今年度の小笠原研修では、従来より行っている、こども科学教室・南島におけるワークショップ等の他、新しい試みとして乳房山におけるワークショップを行いました。特に今年は、科学教室や2名の生徒の卒論調査に母島の方々がたいへん好意的に協力して下さいました。参加者は1年生の高梨綾希子、大澤史仁、2年生の富岡健太、小笠原咲、坂本玲、新里真奈美、中野純玲、小松万璃子、3年生の真下あずみ、筒井音羽の10名です。

7．21世紀の中高生のための国際科学技術フォーラム（SKYSEF）（8月3日～6日）

エネルギー、生物、環境の視点から、研究発表や共同プロジェクトを通じて今後の科学技術のあり方を考えるフォーラムでした。1年生の尾林舞香、2年生の清水皓裕、3年生の石原景太が出場しました。

8．TaiwanHSP/JapanSSH Science Education Exchange Symposium（SEES）2013（8月16日～20日）

毎年開催されている台湾高瞻計画校（日本のSSH校に相当）と日本SSH校との大きな科学教育交流シンポジウムであるSEESが、今年度も台湾高雄市国立科学工芸博物館を会場として開催されました。参加者は2年生の新里真奈美、3年生の宇都宮彩花、園部彩香、皆川萌佳の4名です。

9．水中ロボットコンベンション　（8月31日、9月1日）

SSHクラブロボット班は海洋研究開発機構（横須賀）に行き、自律航行ができる潜水ロボット（AUV）を製作し、大学生や大学院生と同じ土俵でのコンテストに参加しました。海洋研究開発機構理事長賞と高校生部門賞２位を受賞しました。

10．ルネサス　SSH特別講義　「組み込みマイコン講習会」（10月19日）

世界最先端のマイコンを製作するルネサスの技術者の方に本庄高等学院にお越しいただき、マイコンによる機械制御の基礎を学びました。4時間に及ぶ講習会でしたが、参加した生徒はとても熱心に受講し、プログラムを楽しんでいました。1年生の斎藤喬介、白石篤至、辻雄太、2年生の寺村まどかが参加しました。

11．NJC-Waseda Exchange Programme（11月1日～7日）

毎年開催している、姉妹校であるSingapore National Junior Collegeとの交流プログラムNJC-Waseda Exchange Programmeが標記日程で実施されました。NJCから女子8名、男子2名、教員2名が本庄学院を訪問しました。11月1日～3日はESSやバディ生徒もオリンピック青少年センターに宿泊し、科学未来館でのワークショップ、都内ツアーやミーティング等で交流を深めました。11月3日～7日はSSH特別講義「高温超電導実験」、茶道部による歓迎お茶会、小山川河川調査、藤田小での交流、授業参加、群馬富岡自然史博物館・共同研究ミーティング等盛りだくさんのプログラムでした。この場を借りてホストファミリー・バディとしてご協力いただいた、市川なつみ、阿左美優花、櫻井麻緒、辰野萌、坂本玲、増田葉月、吉田麻未、設樂彩香、水上智瑛、萬羽里映さんとそのご家庭に心よりお礼申し上げます。

12．Maker　Faire　Tokyo 2013（11月3日、4日）

お台場の日本科学未来館で行われた、一般人から企業までが参加する日本で最大の「ものづくりの祭典」にSSHクラブの水中ロボを出展し、特設プールでその雄姿を披露しました。多くの来場者からシステムやプログラムなどの質問をいただき、活発な情報交換ができました。

13．Japan Super Science Fair2013（11月7日～12日）

立命館高校主催Japan Super Science Fairが開催されました。世界で最も規模の大きな国際高校生学会であり、今年度は世界19か国300名を超える生徒教員が参加する大きな大会でした。本庄学院は第1回から参加しています。1年生の阿左美優花、谷口晴城、2年生の岡本茉里香の3人です。阿左美と岡本は河川における水力発電の研究について発表し、谷口はNJCとの共同発表として放射線の観測に関する発表を行いました。

14．サイエンスアゴラ　2013（11月9日、10日）

日本で最大の科学のイベントに本学院で行っている放射線教育の紹介で出展しました。会場はお台場の都立産業技術研究センターでした。潜水艦による水底の放射線を測定する方法の紹介や、椀かけ法による希土類元素の分離方法など生徒が中心になって説明しました。中学生や高校生の見学者が多く、生徒同士の交流が活発に行われました。

15．福島県石川町巡検　（11月13日）

福島県石川町に赴き、第2次世界大戦中に日本軍が原子爆弾開発のための放射性鉱物を採取した鉱山跡や、歴史民俗資料館の特別展示などを見学しました。見学中に上空に自衛隊の飛行機が飛び，昭和20年に空爆された中学生の心境を少しだけ感じることができました。1年生の斎藤喬介、白石篤至、辻雄太、2年生の津村光輝、片亀榛花、武田智貴が参加しました。

16．河川調査プロジェクト

①本庄市立藤田小学校での出張授業等

出張授業（6月5日、6月19日、9月11日、10月30日、11月6日）、合同河川調査（6月12日、10月23日）を行いました。特に11月6日の授業では姉妹校のNational Junior Collegeも参加し、1年生の尾林舞香、3年生の川平みつる、筒井音羽が通訳を務めました。

②川仲間になろう！ 第9回川の日ワークショップ 関東大会（10月6日）

東京農業大学にて行われた標記大会で1年生の尾林舞香、佐藤裕友、2年生の清水皓裕が活動報告をし、見事優勝を果たしました。その結果全国大会（11月2日、3日）にも推薦され、入選を果たしました。

③本庄総合大学（11月9日）

本庄総合大学にて1年生の佐藤裕友、3年生の石原景太、浦野貴之、藤井すみれが講師を務めました。研究の取り組みを報告し、水質調査の方法を解説しました。

17．速報！以下の研究が朝日新聞社主催 JSEC（Japan Science and Engineering Challenge）で表彰されます。

①1B斎藤喬介、白石篤至、辻雄太「自律航行ができる無人型潜水機（AUV）の開発と水底堆積物のガンマ線量測定」、JSEC決勝進出（決勝は12月7日・8日）

②3G萬羽里映・3H藤井すみれ、「日本の小河川環境に適したマイクロ水力発電機の開発」、JSEC佳作

JSECは日本で最も権威のある高校生科学論文コンテストの１つです。決勝は、高校野球における甲子園のような存在です。決勝で上位8位に選ばれると、アメリカで世界中の高校生と研究発表する場が与えられます。

生徒達の活躍 Special!

夢の舞台、インターハイ決勝

陸上競技部顧問　田邊　潤

インターハイに出場するチームスポーツの中で、最も参加校の多い種目の一つが陸上競技４Ｘ１００ｍリレーであろう。埼玉県だけでも毎年約１５０校、全国で約４０００校のチームが夢の舞台インターハイを目指す。４名のスプリンターのスピードと正確なバトンパスで勝負が決まる非常にスリリングなこのレースに、本庄高等学院陸上部の多くの先輩たちも魅せられ、挑戦し続けながらも夢砕かれていった。そんな高い壁を2013年のチームがついに超えた。その壁を越えていったメンバーは池田賢史（３Ｃ）、塚本弘樹（３Ｃ）、三田真也（３Ｇ）、村田優介（３Ｈ）、相良和希（３Ｃ）、櫛田光祐（２Ｄ）。彼らは４月の埼玉県北部予選から勝ち上がる一本一本のレースの中、故障者の続出によるバトンパスの修正を乗り越え、並み居る強豪に立ち向かっていった。そして、５月の県大会で２位、６月の北関東大会では優勝し、先輩たちが越えられなかった高い壁を越えていった。

そして迎えたインターハイ。本庄から多くの陸上部員が九州の大分に集結し、熱い声援を送る中、４Ｘ１００ｍリレー予選３組は強豪ぞろい。九州大会を40秒台で制した沖縄の那覇西、高校野球の強豪愛工大名電、星稜、済美、さらには北関東では勝っているもののタイムでは上位の埼玉栄と、本庄学院の持ちタイム41秒36は５番目で苦戦が予想された。そんな緊張感の漂う中、１走池田君は持ち前の勝負度胸で好スタートを切り、上位で２走の塚本君へバトンを渡した。塚本君は個性的なチームを常にまとめるリーダー的な存在。インターハイに向けて調子を上げ、ぐんぐん加速してゆきバトンゾーンに入った。ところが３走櫛田君のスタートが一瞬早く、塚本君がなかなか追い付かず「あー!!」スタンドの部員たちから悲鳴が上がった瞬間、20mのゾーンぎりぎりでバトンはつながった。そこから唯一の２年生櫛田君は速いピッチを駆使した得意のコーナーワークで差を挽回し、アンカーの三田君へ。三田君は２００ｍで北関東№１のスプリンター。いつものような驚異的なラストスパートで前を走る２チームを抜き去り、混戦のレースを制してチームはトップ通過を果たした。記録はチーム新記録の41秒29。スタンドの部員たちからも大歓声があがる、感激の予選突破であった。翌日の準決勝。全国大会独特の緊張感の漂うウオーミングアップ場。洛南、八女工業、滝川第二･･･、歴代優勝校がそろう中で早大本庄学院の選手たちの臙脂にWのユニフォームは異質な輝きを放っていた。「俺たちにはプレッシャーなんてないぜ！」選手たちは明るい笑顔でマネージャーの小林真穂さん（３Ｆ）とハイタッチを交わしながらスタジアムに入っていった。そしてスタートした準決勝レース。トップを行く仙台育英を懸命に追いながらもスタートから上位校の流れに乗れないまま７位でレースは終わった。「やっぱりみんな強かったです！」戻ってきた選手たちは皆さわやかに振り返り、いつものような明るい笑顔に戻っていた。インターハイ決勝進出の夢は果たすことができなかったが、選手たちに涙はなかった。このリラックスこそが、どんなに追い込まれても彼らが常に実力を発揮できた要因の一つだったと思う。

２日後の男子２００ｍ。リレーチームが果たせなかったインターハイ決勝。この夢の舞台に、予選準決勝を見事なレースで勝ち抜いた陸上部の誇るスーパーエース三田君が立っていた。第5レーンには世界陸上代表のスーパー高校生、京都洛南高校の桐生選手。選手名のアナウンスコールの後「シンヤー！！！」スタンドの部員たちが大きな声で一斉に叫んだ。そして、一瞬の静寂の後スタート。三田君は素晴らしいコーナーワークで直線に飛び出していった。そして、前半少し遅れたものの得意のラストスパートで追い込み5位に入賞した。これは2005年の6位入賞を超える陸上部インターハイ最高成績であった。「お疲れ、シンヤー！」スタンドからの声に、三田君はいつものようにはかみながら微笑んだ。本庄学院陸上部員がみんなで戦った灼熱のインターハイはこうして幕を閉じた。

試合後スタジアムの外で、選手に保護者も加わり丸く輪を作ったミーティングの後、リレーでアンカーを走った三田君は、持っていた金色のバトンを新キャプテンの田村優君（2C）にパスした。それは、自らのインターハイ決勝レースの思いを伝えるものであるとともに、リレーでの決勝進出というチームの新たな夢の挑戦の始まりを意味するものであった。

◆硬式野球部

第28回県北八校野球リーグ大会　優勝
会場：本庄市民球場
　11月9日　2回戦　対本庄高校　6-1
　11月6日　決勝戦　対本庄東高校　10-1

◆硬式テニス部（新人戦県大会以上）

個人戦
　男子シングルス　ベスト128：高橋・町田・城井・小林
　男子ダブルス　ベスト32：高橋・城井、ベスト64：町田・村松
　女子シングルス　優勝：塩田、4位：内田、ベスト16：新井、ベスト64：村上、ベスト128：高梨
　女子ダブルス　ベスト8：塩田・内田、ベスト32：新井・村上
団体戦
　男子（高橋勇・町田・城井・小林・井手・山崎・高橋智・古田・村松）
　1回戦：早大本庄1-4川口北（第8シード）
　女子（塩田・内田・新井・村上・高梨・市川・辰野・櫻井、第2シード）
　1回戦：bye
　2回戦：早大本庄3-2栄東
　3回戦：早大本庄3-0（打ち切り）春日部女子
　4回戦：早大本庄3-2越谷南

決勝リーグ
　1回戦：早大本庄3-2浦和東（S1塩田6-1沓名、D1高梨・市川1-6佐々木・石橋、S2内田6-0鈴木、D2村上・櫻井1-6木許・栽、S3新井6-0伏島）
　2回戦：早大本庄4-1秀明英光（S1塩田6-4西村、D1村上・高梨0-6吉田・田村、S2内田6-1天野、D2新井・櫻井6-0久保田・北澤、S3市川6-0（不戦勝））

秋の新人戦個人戦はその上がない上に、1セットなので春のインハイ予選に比べるとどうしても盛り上がりに欠けます。しかし、団体戦は春に比べて参加人数が多く対戦のやり方に工夫を加えられる上に、総当たり戦となる関東選抜大会、そして高校テニス界の甲子園である全国選抜大会、その上には全米オープンと続くため、高校テニス生活の中では年間を通し最も意義深い大会です。

女子硬式テニス部は2007年の共学化以来、少しずつ実績を上げてきましたが、今回県2位までに与えらえる関東選抜大会の出場権を得ることができました。関東選抜大会は出場校16校にすべて順位をつける過酷な大会です。その中で8位までに入ると全国選抜大会の推薦権を得ることができます。全国選抜大会を目指して頑張りますので、ご声援をよろしくお願いいたします。

◆ワンダーフォーゲル部

月１回のミーティングと定例山行、夏山および秋山合宿を中心に、部員23名で活動しています。定例山行と秋山合宿は、関東山地での日帰りおよび１泊２日とし、夏山合宿は北アルプスでの縦走登山に出掛けます。日帰り登山でも，入山から下山まで７時間以上は歩く健脚コースを設定しています。今年度に実施した山行は、次の通りです。

　4／28　定例１回　堂平山・大霧山
　5／26　定例２回　武甲山・小持山・大持山
　7／22～24　夏山合宿Ａコース　唐松岳
　8／26～29　夏山合宿Ｂコース　燕岳・大天井岳
　9／23　定例３回　高尾山・景信山・陣馬山
　11／13～14　秋山合宿　雲取山（三峰神社から鴨沢バス停まで）
　12／16　定例４回（予定）　釜伏山・登谷山・皇鈴山

◆バレーボール部

2013年6月17日　インターハイ埼玉県予選
　1回戦　早大本庄２(25-15、25-17)０所沢北
　2回戦　早大本庄０(20-25、9-25)２埼玉栄
　埼玉県ベスト32
2013年 7月24日・26日　関東私学大会
　予選リーグ
　早大本庄２(25-19、25-11)０慶応藤沢
　早大本庄２(25-17、25-20)０東京成徳大
　早大本庄２(25-11、25-17)０つくば秀英
　決勝トーナメント
　早大本庄１(25-23、15-25、13-25)２日本学園
　関東Bブロック8位
2013年7月27日・28日　東京六大学附属高校リーグ戦
予選リーグ
　早大本庄２(25-23、20-25、21-19)１早大学院
　早大本庄２(25-16、25-11)０明大中野
順位決定リーグ
　早大本庄１(25-22、15-25、11-15)２慶応志木
　早大本庄０(24-26、23-25)２法政
　早大本庄２(25-21、22-25、15-11)１慶応藤沢
9チーム中5位
（個人賞）
　スパイク賞2位　酢谷駿平　サーブ賞1位　村井優
　セッター賞2位　原口燿　リベロ賞3位　寺石周防
2013年8月8日、9日　埼玉県私学大会
　予選リーグ
　早大本庄２(25-20、25-19)０栄東
　早大本庄２(25-6、25-6)０秀明英光
　早大本庄０(16-25、13-25)２本庄第一
　順位決定リーグ
　早大本庄、西武文理、花咲徳栄、昌平のリーグで2位
　埼玉県5位
2013年9月28日、29日　埼玉県北部技術講習会1年生の部
　予選リーグ
　早大本庄０(15-25、20-25)２進修館
　早大本庄０(22-25、16-25)２熊谷
　予選リーグ敗退
2013年11月2日、3日　全日本選手権埼玉県北部予選
　１回戦　早大本庄２(25-14、25-12)０深谷第一
　準決勝　早大本庄２(20-25、25-11、25-22)１松山
　決　勝　早大本庄０(23-25、18-25)２進修館
　堂々の準優勝でした
2013年11月13日　全日本選手権埼玉県予選
　１回戦　早大本庄０(14-25、18-25)２進修館
　埼玉県ベスト32
　これからも応援よろしくお願いします！

◆ラグビー部

国体県大会
　1回戦　6月1日（土）　昌平　50－0　早大本庄
第93回全国高等学校ラグビーフットボール大会埼玉県予選
　1回戦　9月14日（土）　早大本庄　43－7　細田学園
　2回戦　9月22日（日）　早大本庄　38－19　川越
　3回戦　10月13日（日）川越工業　56－0　早大本庄
◇3年生最後の大会は、1、2回戦はどうにか勝ち上がれたものの、3回戦では相手のパワーとスピードに圧倒され、完封負けを喫しました。結果は残念でしたが、増田宏人主将はじめ3年生諸君は、これまでの鍛錬をこれからの人生の糧にして欲しいと思います。なお、矢口貴大君（２Ｅ）率いる新チームによる新人戦が12月下旬から始まります。あらためて応援よろしくお願いします！また、特に1年生諸君、今からでも全く遅いということはありません!!興味のある人は是非グランドへ見学に来て下さい!!

◆バドミントン部

第18回私立高等学校選抜バドミントン大会出場

◆茶道部

茶道部は、茶道の文化背景や所作が内包している日本文化を学び、それを伝えることを目標に、週２回＋α活動を行っています。ここでは、11月６日に行ったＮＪＣ生徒教員に対する歓迎お茶会の模様をお伝えします。

11月６日、宥勝寺をお借りして歓迎お茶会を行いました。蹲からお入りいただき、茶会のテーマ・お道具の紹介・お点前の所作を英語で説明しました。お客様とバディがお菓子とお茶をいただいた後で、５つのグループに分かれ、お茶の点て方を経験してもらいました。ＮＪＣのお客様のみならずバディの学院生諸君にとっても日本文化を知ってもらういい機会になったのではないかと思います。

◆ディベート部

①ディベート甲子園　関東甲信越地区大会（6月16日、7月14日）
　2－1　東海大相模（神奈川）
　3－0　県立千葉高（千葉）
　3－0　女子聖学院（東京）
　1－4　開智高校（埼玉）
　0－5　慶應義塾高（神奈川）
　※　慶応義塾高校との「早慶戦」をものにできず、２年ぶりの全国大会出場を逃しました。
②中学高校ディベート　関東甲信越地区秋季大会（11月23日）

○高校部門　準優勝
　メンバー：吉田竜作・佐藤礼佳・田中楓大（２Ａ）・栗田康平・中澤昂弘（２Ｈ）
　○－×　早大学院（東京）
　○－×　渋谷幕張高（千葉）
　○－×　聖光学院高（神奈川）
　1－4　慶應義塾高（神奈川）
　※　念願の初優勝は果たせませんでしたが、秋大会での準優勝は過去最高の成績です。
○即興部門
　チーム１　メンバー：畑野信太郎（２Ａ）・高塚賢多（２Ｃ）・大友春輝（２Ｈ）・勝又絵里佳（１Ａ）・畠山怜（１Ｇ）
　○－×　東京学館浦安（千葉）
　○－×　創価中学（東京）
　×－○　開智高校（埼玉）
　チーム２　メンバー：福島みのり（３Ａ）・鬼澤日菜（３Ｄ）・小林拓真（３Ｇ）・蒲地竜矩（３Ｈ）
　○－×　都立西高校（東京）
　×－○　創価中・高（東京）
　○－×　駿台甲府高（山梨）

◆政治経済部

①本庄地域「高校生プロジェクト」
　※　政治経済部の部員たちは、本庄地方拠点都市整備推進協議会における域内６高校の生徒の協働プロジェクトとして、地域の魅力を活かした『ガリガリ君』の新しいフレーバーを赤城乳業株式会社へ提案し、商品化する企画に挑戦しています（協力・本庄早稲田国際ＲＰ、よしもとクリエイティブ・エージェンシー）。これまでの経緯は、次の通りです。本番となるプレゼンテーション会議は、12月15日（日）の予定です。
　7月30日　赤城乳業　本庄千本さくら工場見学・研修
　8月21日　本庄市・神川町　地域めぐり・特産物調査
　8月22日　美里町・上里町　地域めぐり・特産物調査
　9月21日、11月2日・16日　企画会議・プレゼンテーション準備　フレーバーのみならず、パッケージデザイン、ネーミング、「当たり棒」の新設計まで構想を広げています。
②『エコノミクス甲子園』埼玉大会（11月24日）4位・8位入賞
　4位　大森滉平（２Ｅ）・須永泰行（２Ｆ）
　8位　中澤昂弘・原健志（２Ｈ）
　※　経済・金融の理論から実務まで幅広い知識が問われる高校生クイズ大会で、２チームが県大会上位入賞しました。
　大森・須永ペアは決勝リーグで一時トップに躍り出ましたが、終盤戦で惜しくも競り負け、早大本庄としては２年ぶりの全国大会県代表の切符を逃しました。

◆囲碁将棋部

囲碁
　武澤宏樹（３Ｈ）、齊木果穂（１Ｆ）：第37回全国高等学校総合文化祭囲碁部門団体戦４位（埼玉県代表主将と三将で活躍しました。）
　齊木果穂（１Ｆ）：関東高校囲碁選手権大会埼玉県予選個人戦女子優勝１月神奈川県厚木市で行われる関東大会に出場予定です。
将棋
　高久保香子（１Ｇ）：埼玉県高等学校将棋王位大会女子４位
　高橋知也（３Ｅ）、蒲地竜矩（３Ｈ）
　埼玉県高等学校将棋王位大会Ｂ級３位

佐藤礼佳（２Ａ）：埼玉県高等学校将棋王将大会女子８位
稲玉侑里子（１Ｇ）：埼玉県高等学校将棋王将大会女子10位
田中楓大（２Ａ）、中西諒（２Ｇ）：埼玉県高等学校将棋王将大会Ｂ級３位

◆ブラスバンド部

8月8日
　埼玉県吹奏楽コンクールＡ部門地区大会（さいたま市文化センター）
　銀賞
11月18日
　埼玉県アンサンブルコンテスト地区大会（久喜総合文化会館）
　金賞（代表）
　フルート３重奏　吉田櫻子（２Ｄ）・河田尚子（２Ｆ）・牛木あみ（１Ａ）
　銀賞
　打楽器３重奏　加部沙里菜（２Ｃ）・金川美咲（２Ｆ）・板橋純（１Ｄ）

【公認団体以外】

8月3日
　第７回高校生模擬裁判選手権（東京地方裁判所・弁護士会館）
　審査員特別賞　橋本康平（３Ｄ）
11月16－17日
　第７回全日本高校模擬国連大会（国連大学本部ウ・タント国際会議場）
　出場　西山京佑（２Ｈ）・原健志（２Ｈ）